## 東大阪立志の会

個人質問　木村　芳浩

### 災害時でも業務継続を！基礎的地方公共団体としての責任を果たせ！

―BCP（業務継続計画）について―

**問**　市は、市域並びに市民の生命、身体及び財産を災害から保護し、同時に災害時にあっても停止することができない業務や、住民生活に必要不可欠な業務への対応が求められている。本市も平成二十六年三月に「東大阪市業務継続計画」を策定しており、実効性を検証するために、訓練等を実施する必要があると考えるが、当局の見解を問う。

**危機管理監**　計画の実効性を確認するために、各部局が作成した災害時の業務マニュアルをもとにした全庁的な訓練を行い、業務継続計画の実効性を高めていきたい。

―小中一貫教育について―

**問**　小中一貫教育は学力向上を初め、教育課題の解消に繋がるとともに、一貫した教育方針のもと、学校生活を送ることができる素晴らしい施策である。本市も、池島中学校区と縄手南中学校区を小中一貫校のモデル校として実施する。本市の目指す小中一貫教育のイメージと、平成三十一年度に向けたスケジュールを伺う。

**教育次長**　平成二十八年度から、全ての中学校区で行事や指導方針を一貫教育の視点で推進し、小中一貫教育カリキュラムの研究実施を行う。また、平成三十一年度から小中一貫教育カリキュラムを実施していく。

## 東大阪明政の会

個人質問　西村　潤也

### 小学校の普通教室にもエアコンを設置し、教育環境の向上を！

―小学校における暑さ対策について―

**問**　近年、夏の暑さはますます厳しくなっている。中学校では、すべての教室でエアコンを設置しているが、小学校では特別教室に設置されているだけで、普通教室には設置されていない。小学校にもエアコンを全て設置すると、新たに財政的な負担となることはわかるが、子ども達の教育環境を考えると、設置することが望ましい。今後の暑さ対策について当局の見解を伺う。

**教育総務部長**　エアコンの設置も含めてさまざまな検討を行い、今後も小学校の暑さ対策を進めていく。

―大阪瓢箪山線について―

**問**　大阪瓢箪山線と中央環状線の交差部分について、現在交差点がないため、中央環状線の南から東へ向かう場合、非常に狭い道を通る必要があり、歩行者や自転車が車と接触しかねない。大阪瓢箪山線が一部開通すると、交通量が増え、この部分の改良は大きく問題視されるのではないか。この交差部分について、大阪府と交通調査を実施したと伺ったが、その結果と今後の対策について答えよ。

**土木部長**　交差点については、未整備により周辺道路の影響が大きく、改良が必要である。交通量調査の結果を踏まえて改良を行い、大阪府との連携を深め、早期完成を目指したい。

## 蓮の会

個人質問　右近　徳博

### 危険家屋にならないための予防策や空き家の活用策を検討せよ！

―空き家対策について―

**問**　国は、平成二十七年五月二十六日に、空き家等対策の推進に関する特別措置法を施行した。本市もこの特別措置法に基づき、空き家対策に関する基本方針などを示した空き家等対策計画の着手のため、策定経費が計上されている。この空き家対策計画は、適正に管理されていない危険な家屋や、老朽危険家屋などへの応急対策が中心になるが、応急対策だけでなく、危険な空き家にならないための予防策や、空き家の活用策についても、今後の課題であるが、当局の考えを伺う。

**建築部長**　行政だけの利活用方策だけでなく、民間にできること、地域にできること、行政がしなければならないことを検討していく。また、持続可能な予防策や活用策を検討していく。

―子育て世代包括支援センターについて―

**問**　本市では、子育てに関するさまざまな相談窓口を設けているが、市民にとってどこの機関に相談すればよいのか、わかりにくい体制になっている。このことから、切れ目のない支援をワンストップでできる拠点「東大阪市版ネウボラ」の創設を検討するべきではないか。

**子どもすこやか部長**　利用者にとってワンストップで、切れ目のないサービスが提供できるよう仕組み作りの検討を進める。

## 新政策研究会

個人質問　飯田　芳春

### 市の財政と総合病院の経営状況は危機的状況である!!早急に赤字体質の改善を!!

―中長期財政収支見込みについて―

**問**　財務部が作成した中長期財政収支見込みによると、平成三十五年度には本市が保有している財政調整基金を全て投入しても予算が組めなくなるとされている。さらに、この見込みは様々な収入を過大評価している点が見られ、もしこの予測が外れた場合、さらなる財政危機に陥ってしまう。今後様々な大型事業が目白押しであるが、本市の財政状況では小中学校の耐震化工事への財政投入で精一杯で、これ以上の財政的余力はないと考えるがどうか。

**財務部長**　本市の財政調整基金の残高見込みは、市の財政規模に比べて非常に低水準で、財政的には厳しい状況である。今後については、経済環境の変化など予測しがたいリスクがあることを念頭に、収支見込みには一定の幅を見込む必要があると考えている。

―総合病院の不安定な経営について―

**問**　市立総合病院は今、大きく舵を切って地方独立行政法人化へと進んでいる。それを具体化するために膨大な予算を投入されているが、まず行うべきは経営改善であると考えるが、総合病院はどのような経営改善を行ったのか。

**総合病院事務局長**　病床利用率は平成二十六年以降上昇しており、それによって収支の改善を図っている。